

公益財団法人 檜の芽会 御中

令和 7 年度伴走型就学・学習支援活動助成 実施報告書

【団体の概要】		①作成日	令和 8 年 5 月 2 4 日
②法人・団体名	特定非営利活動法人アスワード		
③団体所在地 (都道府県・市町村名まで)	群馬県伊勢崎市		
④責任者氏名	山本 祥一	(役職名等)	代表理事
⑤担当者氏名	大谷 彩寧	(役職名等)	理事

【奨学活動の概要】					
⑥助成交付決定番号	R07-022	⑦助成金額	5 0 万円	⑧申請カテゴリー	C
⑨奨学活動名	マナアス群馬				
⑩主な実施場所名・及びその住所	群馬県伊勢崎市				

⑪活動内容とその成果の概要（詳細は【様式 3 - 2】又は別添資料にて記載・説明ください。）

当法人が活動する伊勢崎市は、地域住民により開かれる学習支援の場が少なく、家庭の経済的な問題で通塾できない子どもと習慣的に通塾している子どもとの間で、学習習慣に大きな偏りがあることが課題である。そこで、上記の地域課題を是正するため、また経済的な問題を抱える子育て世帯及び学習に悩みを抱える子どもを支援するため、「マナアス群馬」改め「マナアス塾」と題して“地域に開かれた学習塾”を実施している。

本活動は、毎月第一・第三日曜日、小・中学生を対象に行う少人数制学習支援活動である。参加費用は 1 回 5 0 0 円（令和 8 年度より無償化）、教科は五教科対応で行い、子どもたちが持参した持ち込み教材や団体所有の教材を使用して学習する。また、学校での ICT 機器の使用に合わせてタブレットを導入しており、学習における補助教材として利用している。

令和 7 年 1 1 月から 3 月までに計 1 0 回開催し、参加者数は平均 2 人とリピーターの確保はできているものの、1 回の平均参加者数が低いことが課題として挙げられる。今後も本活動を継続して行っていくにあたり、課題改善に向けて検討を重ねながら対応していきたい。

⑫奨学活動の定量的把握（注：統計情報として参考まで把握するものです。活動成果等は上段⑪及び様式 3 - 2 等でご報告願います。）

支援対象	延べ人数 (A : 人)	平均時間 (B : 時間)	活動量 (A x B)	備考・補足・計算根拠等
中学生等	20	1.5	30	平均 2 人/回 × 2 回/月 × 5 ヶ月 × 1.5 時間
高校生等				
大学生等				
学習支援員等	54	3	162	平均 3 人/回 × 2 回/月 × 9 ヶ月 × 3 時間
その他				
合 計			192	

⑬その他の定量的な数値（任意）

令和 7 年度伴走型就学・学習支援活動助成 実施詳細報告書

奨学活動名：マナアス群馬

法人・団体名： 特定非営利活動法人アスワード

作成者 氏名： 大谷 彩寧（理事）

1. 取り組んだ課題や実践した目的・実施内容について

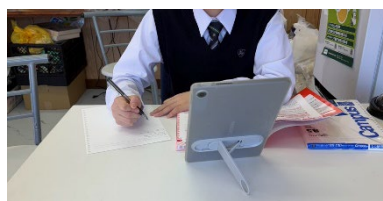
当法人が活動する伊勢崎市は、地域住民により開かれる学習支援の場が少なく、家庭の経済的な問題で通塾できない子どもと習慣的に通塾している子どもとの間で、学習習慣に大きな偏りがあることが課題である。また、県内の他市に比べて外国にルーツのある住民が多く居住しており、多文化共生都市として地域住民と外国にルーツのある住民が交流できる場を創出し、学習に困難さを抱える子どもたちを支援していくことも大きな課題として挙げられる。そこで、上記の地域課題を是正するため、また経済的な問題を抱える子育て世帯及び学習に悩みを抱える子どもを支援するため、「マナアス群馬」改め「マナアス塾」と題して“地域に開かれた学習塾”を実施した。改名は、名前から活動内容を推測しやすくするために行ったものである。

本活動は、毎月第一・第三日曜日、小・中学生を対象に行う少人数制学習支援活動である。参加費用は1回500円、教科は五教科対応で行っている。教材は子どもたちが持参した学校ワークや問題集、プリントなどを使用するほか、教材を持参していない子や追加で勉強したい子には当団体所有の教材を貸し出したり、プリントをコピーして配付したりするなど臨機応変に対応しながら学習支援にあたっている。時間は1部（15時～16時30分）、2部（16時30分～18時）の二部制で開催しており、募集期間は2週間以内の完全予約制で実施。参加者にはどちらかを選択して申し込んでいただく。そして、申し込み時に当日学習したい教科・範囲を確定してもらい、事前に運営スタッフ・学習支援員が学習内容を把握した上で実施できるようにし、各自指導準備をして臨めるよう工夫している。

全国的に小・中学校において ICT 機器の導入が推進されていること、授業や学級活動等においてクロームブックやタブレットをはじめとした ICT 機器が活用されていることから、本活動でもタブレットを導入し、学習における補助教材として活用している。保護者との連絡ツールとしても利用しており、当日の学習内容・進捗・使用した教材・学習態度を口頭またはメール、LINE にて報告をし、安心安全に参加してもらえるよう対策を行っている。また、外国にルーツのある子どもに対しても対応できるようにし、会話や学習内容に関する翻訳で利用できるよう体制を整えている。

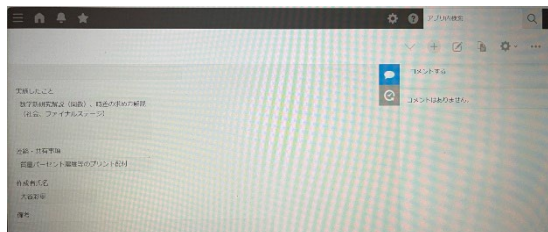
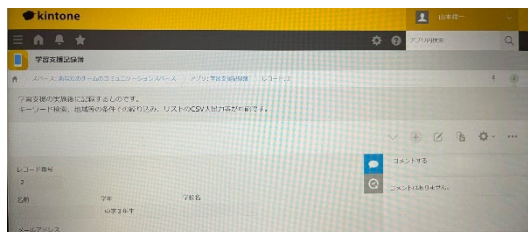
2. 実施した奨学活動の詳細

●活動内容の詳細



学習支援員と子どもが2対1、あるいは1対1になるように設定し、90分間のうち10分間休憩を取りながら行った。主に子どもが持参したワークやプリントを使って学習し、わからないところがある場合や手が止まった際には学習支援員が声をかけて解説を行った。また、コンパスを使った作図では学習支援員が実際に作図の仕方を示したり、解き方を何パターンか教えたりするなど、文具・教材の充実、指導内容の充実を意識している。

タブレット学習では、英語の発音を確認したり、英文法の不明点を動画で確認したりして学習内容に直接関わる内容を調べるほか、地理では国の位置を世界地図を使って確認したり、歴史の大まかな流れを調べて年表にまとめるなど、間接的に関わる内容を調べたりしながら学習を行った。



また、キントーンを活用して子どもたちの学習記録（ポートフォリオ）を作成し、参加者の学習の頑張りを可視化し、何をどのように学習したかの記録を行っている。

●実施日時

月	日	曜日	実施場所	実施内容
11	2	日	アスワードスペース	第1回マナアス塾
	16	日	アスワードスペース	第2回マナアス塾
12	7	日	アスワードスペース	第3回マナアス塾
	21	日	アスワードスペース	第4回マナアス塾
1	11	日	アスワードスペース	第5回マナアス塾
	25	日	アスワードスペース	第6回マナアス塾
2	1	日	アスワードスペース	第7回マナアス塾
	15	日	アスワードスペース	第8回マナアス塾
3	1	日	アスワードスペース	第9回マナアス塾
	15	日	アスワードスペース	第10回マナアス塾

●参加人数

月	日	曜日	活動内容	ボランティア数	参加者数
7	19	土	マナアス塾打ち合わせ会議	4名	
	30	水	備品購入	2名	
8	30	土	備品購入	2名	
	31	日	備品購入	3名	
9	4	木	備品購入	2名	
10	2	木	マナアス塾最終実施会議	6名	
	15	水	備品購入	2名	
	19	日	マナアス塾保護者説明会	3名	2名

11	2	日	第1回マナアス塾	3名	2名
	16	日	第2回マナアス塾	2名	1名
12	7	日	第3回マナアス塾	2名	1名
	21	日	第4回マナアス塾	2名	2名
1	11	日	第5回マナアス塾	2名	1名
	25	日	第6回マナアス塾	5名	3名
2	1	日	第7回マナアス塾	2名	2名
	15	日	第8回マナアス塾	3名	2名
3	1	日	第9回マナアス塾	4名	3名
	15	日	第10回マナアス塾	5名	3名

●周知方法／協力いただいた関係者

- ・イベント時、小・中学校、公民館へのチラシ配布、のぼり作成



- ・Instagram、団体 HP、公式 LINE
- ・伊勢崎市教育委員会の後援を受け、市内における地域に開かれた学習塾として周知を行った。

●地域やボランティア活動との連携

令和7年7月に3日間、8月に3日間の計6日間と11月に2日間、市内の小・中学生を対象とした伊勢崎市境公民館学習支援会ボランティアを行った。7月と8月は夏休みということもあり、各日20～30名の小・中学生が参加し、持ち込み教材を使用して五教科対応で行った。11月は中学生の定期テスト対策として実施し、各日15名ほどが参加した。当団体の活動の周知にも繋がり、上記活動に参加した中学生が2名ほどリピーターとしてマナアス塾に継続的に参加してくれるようになるなど、地域・ボランティア活動の連携が図れている。

●学習支援員について

主に当団体（NPO 法人アスワード）のスタッフが学習支援員となってボランティア活動にあたっているが、市内の高校生や大学生にも学習支援ボランティアスタッフとして募集を行っており、当団体のスタッフに加え、現役の高校生・大学生も活動に参加して精力的に活動を行っている。

●購入した教材・物品の写真

①机、椅子



②コピー機、長机



③教材



④モバイル Wi-Fi



3. 本活動から得られたもの、反省点、課題、今後への発展性、等

毎月2回、5か月間にわたって計10回のマナアス塾を実施し、小・中学生に向けた少人数制学習支援活動を行った。まず、7月に実施場所となるアスワードスペースを借り、DIY・掃除などの施設整備からはじまった本活動であるが、施設整備及び備品の準備・購入に時間がかかり、当初の予定から2か月遅れた11月からの開催となったことは反省点として挙げられる。以下、全10回のうち主だった活動内容を以下に挙げる。

第1回マナアス塾は、小学生・中学生各1名が参加し、算数・数学の指導を行った。答えを教えるのではなく、“解き方を教える”ことを目的として行い、子どもたちの教科内容に対する理解を深める学習支援を提供することができた。参加してくれた子ども・保護者からは、「マンツーマンでみっちり勉強したおかげで数学に自信が持てるようになった。」、「子どもたちの学習支援の場の提供はとても助かる。」、「次の機会にも受講させていただきたい。」といった声が聞かれ、初回としては大きな活動成果が得られた。また、子ども2名のうち1名は、同年7月・8月に実施した境公民館学習支援会に参加していた子であり、地域と繋がり

ある活動、そして”地域で支える教育”の実践例として大きな一歩であると考えている。

第5回マナアス塾は、社会の小テスト対策を行った。学校で使用している持ち込みワークを使用して北アメリカ州・鎌倉時代の二つの分野の指導を行い、対話的な学びを通して理解を深めることができていた。本来は開催を予定していない日程での応募かつ開催日前日の応募であったが、団体スタッフ内で連携を取り、迅速に臨機応変な対応ができたことは評価に値する。保護者からは「子ども本人がマナアス塾を積極的に利用したい、毎回楽しみにしてくれている」とのお言葉をいただき、今後も可能な限り子ども・保護者の希望に寄り添える活動・対応を行っていきたいと考える。

第6回マナアス塾は、小学生1名と中学生2名を対象に、角の二等分線・垂直二等分線の作図や関数の指導を行った。中学生2名のうち1名は新規参加者であり、境公民館学習支援会に参加してくれていた子どもである。高校生の新規ボランティアを同伴した指導であったが、必要に応じて紙に解き方を書いて示したり、質問して答えさせたりするなど、解き方を一緒に考えるだけでなく、子ども自身に解き方を考えさせる対話的な指導がみられた。また、学習支援員同士でも解き方を確認し合いながら活動に励んでおり、立場の異なる「他世代間の交流の場の創出」に繋がる活動として今後の活動に繋げていきたい。

第8回のマナアス塾では、中学生2名を対象に英語のワーク、表面積・体積の数学のプリント、関数の文章題、理科の学校ワークの指導を行った。中学3年生の受験生に対しては、受験勉強に役立つよう問題集を貸し出し、自宅でも勉強に励めるよう学習法のアドバイスをを行った。また、受験に対する不安な気持ちを解消できるよう、子どもの話に耳を傾け、必要に応じて助言や学習支援員自身の体験談を伝えるなど、学習面だけでなく心身に寄り添った声かけ・行動ができており、充実度の高い学習支援会であった。

各回の参加者は少なく、参加率にもばらつきがあるなど課題が残るが、参加者や保護者からは前向きな声が聞かれ、学習習慣の形成や学習が楽しいと思えるきっかけづくりという点においては大きな成果が得られたと考える。また、リピーターという形で積極的な利用があることから、広報の仕方を見直し、より多くの小・中学生に支援の手が行き届くよう努めたい。また、今年度の改善案を次に生かし、来年度からの新体制でよりブラッシュアップした「少人数制学習支援マナアス塾」を届けられることができるよう、学習支援事業担当内で話し合い、改善を図っていききたい。

具体的な案として現時点で2つ考えている。1つ目は、「新年おめでとうキャンペーン」と題して無料で行った第6回マナアス塾以降、新規参加者の獲得やリピーターがついたこと、小学生からみて500円の参加費は高いのではないかという声が学習支援事業担当内であがっていることから、参加費1回500円を徴収していたところを無料にする。2つ目は、開催日の見直しに関して、定期テスト前や小テスト前、受験勉強に合わせての利用率が高いことから、地域の中学校の定期テストに合わせて「定期テスト対策月間（週間）」と題して集中的にマナアス塾を開催する。あるいはマナアス塾の開催頻度を上げることを検討する。参加しやすいきっかけ作り・雰囲気作りについて再考し、活動内部の“見える化”を意識した発信、地域の小・中学校との連携を図っていききたい。

今後の展望として、対面での学習支援を十分に運営できる状態を構築後、オンライン講座を設けて開催場所（アスワードスペース）に来ることが難しい子どもたちにも支援の機会を提供できる状態を目指し、一人として取り残さない支援体制を築いていきたいと考える。また、令和8年度には前年に実施した境公民館学習支援会のような公民館事業での学習支援の委託を受ける予定であるため、地域に開かれた学習支援の提供及びマナアス塾の参加者の獲得・活動の周知といった観点から、継続的な事業運営、地域・ボランティア活動の繋がりを目指し、精力的に活動に臨みたい。

4. 本活動におけるエピソード、思い、感想、等（任意）

本活動の「マナアス塾」は、団体設立当初に学習支援事業の主軸活動として行っていた「マナアス」をよりブラッシュアップし、“学習支援”という点に特化した事業を実施するため新しく作られた活動である。「マナアス」は「学び×アスワード」の頭文字をそれぞれとって名付けられ、設立当初から経済的な問題を抱える子育て世帯及び学習に悩みを抱える子どもを支援するために学習支援活動を行

っている。同時に、子どもも大人も含めた「地域の居場所づくり」を目的としており、地域の企業と協働で、マナアスの開催に並行してカラオケ大会やプチ運動会などのイベントを実施し、老若男女問わず集まれる居場所づくりを行っている。

令和7年は市からの委託を受けて境公民館学習支援会に学習支援員として携わり、大変好評を受けた。この活動がきっかけとなって市内における公民館事業のモデル事業として市内各所に周知され、今後同様の活動が増えていくことが伊勢崎市教育委員会より推進されている。

地域と子どもの交流の場の創出、多世代交流の場の提供、まちなかの活性化、地域に開かれた学習支援は市内外で求められていることであり、本活動はその先駆けとして実施されている。同様の事業のモデル活動として本活動が周知されていくよう努めるとともに、市内外に“地域に開かれた学習塾”が増えていくことを望んでいる。

5. 学識者からのご意見、コメント、等（申請カテゴリーにて「S」が付されている団体）